

徳島県西部の観光ゲートウェイについて

観光・まちづくり・防災拠点 重点道の駅「みまの里」のご紹介

徳島県 県土整備部 道路整備課

1. はじめに

「道の駅」は、道路交通の円滑な流れを支えるため、「休憩・情報発信・地域連携」の3つの機能を持った複合施設であり、これまでに、全国で1,145駅（H30.4.25現在）が登録されています。四国においては、87駅登録されており、徳島県においては16駅が供用しています。

当初、ドライバーが安心して立ち寄れる休憩施設として定着してきた「道の駅」は、近年地域の創意工夫により、それ自体が観光目的地となり多くの観光客で賑わう地方創生の拠点になっております。また、東日本大震災では「道の駅」が避難場所や支援拠点など、防災拠点として活用され、平成28年4月に発生した「熊本地震」においても、

- ・支援車両の中継基地や自衛隊の前線基地としての利用
- ・余震を恐れて車中泊する避難者の駐車場所としての利用
- ・入浴施設を併設する駅では、一定期間、被災者向けに無料開放

などが行われ、防災インフラとしての重要性が再認識されました。

さらに最近では、超高齢化や過疎化に対応した道の駅を核とする小さな拠点形成を目指す取り組みを推進するため、地域福祉の向上や住民生活の支援など地域住民へのサービス向上を図る新たな機能が求められています。

今回は、産地直売所、農家レストラン、交流センターの地域振興施設と防災施設を有し、地産地消や六次産業化の推進、さらには地域防災力の強化を目指した事業計画が高い評価を受けたことから、「重点・道の駅」に選定された、道の駅「みまの里」について紹介します。

2. 道の駅「みまの里」の立地

美馬市は、徳島県の西部に位置し、西日本第2位の霊峰「剣山」や、かつては日本三大暴れ川の1つに数えられ四国三郎の異名を持つ「吉野川」など豊かな自然環境と、重要伝統的建造物群保存地区指定の「うだつの町並み」や国登録有形文化財である寺院の集中する「寺町」など、多くの歴史的資産を有しています。

道の駅「みまの里」は、四国縦貫自動車道の美馬インターチェンジから車で3分と地域観光のゲートウェイとして期待できる好立地に位置し、美馬市で2箇所目の道の駅として平成30年6月に開駅しました。



美馬市と道の駅「みまの里」の立地

3. 道の駅「みまの里」のコンセプト

平成24年11月に道の駅「みまの里」のあり方を検討する「美馬市道の駅設置検討委員会」が設置されました。

委員会では、道の駅のコンセプトとして、

(1) 防災拠点機能について

- ・ヘリポート機能を持った災害時の避難場所となる芝生広場設置
- ・非常用発電機や蓄電池を備えた太陽光発電などの設置
- ・水や食料、毛布等の備蓄倉庫の整備

(2) 地域振興施設について

- ・美馬市の特性を生かした農産品等の産地直売所
- ・周辺飲食店等経営者と連携した飲食施設の設置

(3) 周辺の観光資源を繋ぐ拠点機能について

- ・「寺町」や、国指定史跡「こおざとほいじ郡里廃寺」等の観光資源とのアクセス整備

が挙げられました。

4. 道の駅「みまの里」の防災拠点化とサービス機能強化

道の駅「みまの里」では、「南海トラフ巨大地震」をはじめ「中央構造線・活断層地震」など、いかなる大規模自然災害が発生しても、「致命的な被害を負わない強さ」と「速やかに回復するしなやかさ」を持った「災害に強い県土づくり」の実現に向け、「非常用電源」「耐震性貯水槽」「災害トイレ」等の防災施設の整備に取り組みました。

また、防災施設の機能が災害時に迅速に発揮できるよう「市町村連携・地域防災計画」への位置づけや、発災時の市町の対応等について、協定を締結するなど、市町と連携しながら推進しています。

さらに「道の駅」による地域活性化を後押しするため、その基盤となる「道の駅」の機能向上を図ることをしています。

中でもトイレに関しては、「トイレがきれいなことに感謝している」、「きれいなところにはまた寄ってみたい」といったトイレを清潔にしておくことで周遊観光促進や「道の駅」へのリピーター増加といったメリットも期待されることから、道の駅「みまの里」ではトイレの温水洗浄便座化、ベビーチェアやキッズルームの設置、トイレ内照明のLED化といったトイレ環境の快適化も行っていきます。



耐震性貯水槽



防災トイレ



キッズルーム

5. 道の駅「みまの里」の地産地消と六次産業化

地域振興施設のうち「産地直売所」には、世界農業遺産に認定された「にし阿波の傾斜地農耕システム」で作られた雑穀や、地元の豊かな自然が育んだ滋味あふれる農産物や加工品などが豊富に並び、日常の買い物やお土産選びにも利用できます。

また「農家レストラン」では、地元産の玄そばを使用した自家製蕎麦や、県産のブランド鶏の阿波尾鶏を使用した唐揚げ、四季折々の地元食材を使用したパンなど、素材にこだわったメニューが並び、世代を問わず幅広い年齢層を誘客しています。



道の駅「みまの里」全景



地元産の玄そばを使用した自家製蕎麦



県産ブランド鶏の阿波尾鶏を使用した唐揚げ

6. 道の駅「みまの里」の観光拠点化

道の駅「みまの里」の周辺には、美馬市ならではの歴史・文化・自然を生かした特徴ある観光スポットが存在しています。

また、「交流センター」では、こうした観光施設やイベント情報を定期的に発信しており、インバウンド対応としても、多言語パンフレットの設置や無料 Wi-Fi サービスを提供しており、県西部の観光ゲートウェイとしての役割を担っています。

寺町

堂々たる山門、伽藍をもつ寺がいくつも建ち並ぶ、古都の趣が感じられるエリア。

美馬町の歴史・文化の一端を感じることができます。
道の駅「みまの里」より車で2分



段の塚穴

古墳時代後期に築かれた四国では最大級の横穴式石室を持つ古墳です。

古墳時代史解明に欠かせない重要な遺跡で、国史跡に指定されています。

道の駅「みまの里」より車で2分



四国三郎の郷

大自然の中でゆっくりと過ごすことのできる、吉野川を望むオートキャンプ場。

初心者からベテランキャンパーまで楽しめます。

道の駅「みまの里」より車で8分



重清北交流促進簡易宿泊施設「山人の里」

古い木造の小学校校舎を改修して造られた宿泊施設。
石窯で焼き上げるピザ焼き体験や、
四季の農林業体験やバーベキューも楽しめます。
道の駅「みまの里」より車で16分



7. おわりに

産地直売所、農家レストランでは、今後、六次産業化の拠点として、地域のポテンシャルをフルに活用し、地元の多彩な資源を活かしたオリジナル商品の開発・販売を推進することとしており、「みまの里」の駅長は「地域の元気を作る拠点として、まずは農産物のブランド化への取り組みを進めて行き、それを利用した商品の充実を図り、様々な交流イベントを展開しながら、美馬市をどんどん盛り上げていきたい」と語っています。

機会があれば道の駅「みまの里」へお越してください。